

思いやりと温かさが育む 地域福祉創造のまち

1 保健・医療

18年3月に策定した「健康さつま21」の指針に基づき、町民が健やかに、そして心豊かに暮らせるよう、引き続き健康相談、訪問指導、各種健診・がん検診等の実施、その他健康に関する取り組みを推進する。

①地域の健康づくりリーダーとなる健康づくり推進員、食生活改善推進員などの育成を図る。

②保健師や職員の専門性を高める研修への参加など、指導体制の充実に努める。

2 高齢者福祉

本町の高齢化率は35%に達し、超高齢社会が進展している。町民の2・8人に1人が65歳以上の高齢者である現実を直視したとき、高齢者が生涯現役で地域社会の一員として日常生活を営みいきがいづくりや地域の活力につながるような環境づくりが必要である。

①初年度となる第4期高齢者福祉計画に基づき、高齢者の経験や知識を生かせるシルバー人材センターなどの雇用・就業の場の確保、老人クラブやふれあいサロンなど集いと憩いの場の充実等社会参加を促進する。

②地域福祉の充実を図り、高齢者が住み慣れた自宅や地域で自立し、安心して暮らせる地域社会づくりと地域ケア体制の整備を進める。

③介護保険事業は、適切な介護給付に努め、基本理念である「自立支援」を徹底する観点から、介護予防活動を中心とした地域支援事業の拡充を図り、高齢者の主体的な健康づくりを支援する。

3 児童福祉

子どもたちの健やかな成長を育む環境整備や子育て家庭への支援をはじめ、子育て家庭の負担が軽減されるよう、すこやか支援手当の支給や保育料の軽減措置について継続して進める。

①子育てに関する悩みや精神的負担の軽減を図るため、地域子育て支援センター事業の充実を図り、多様化する保育ニーズに対応したサービスに努める。

②児童虐待の問題は、「要保護児童対策地域協議会」を十分に機能させ、安心して子育てができる環境づくりに努める。

4 障害者福祉

地域で自立した生活を送ることができよう、各種生活支援・福祉サービスをを行うとともに、障害者自立支援法に基づき、「第2期障害福祉計画」（3か年計画）を策定する。

①障害者が適切な福祉サービスを受けられるよう制度の周知に努める。

②あらゆる相談に応じ、必要な情報提供や権利擁護・援助を行うため、障害者相談支援事業を新たに実施する。

5 人権同和対策

人権教育推進計画等を基本に、同和問題をはじめ、障害者・女性・子ども・

外国人等の人権についてより一層の理解を深め、偏見や差別をなくし正しい知識のもと、明るい社会実現のため活動を推進する。

3 教育と文化の薫る 生涯学習推進のまち

住民一人ひとりの判断と責任で地域の活性化への取り組みを促進し、共生・協働・共助の地域づくりを推進する。生きがいを感じ学ぶことによって、地域の環境づくりや心身共に健康で心豊かな人生を送り、人々が潤う生涯学習の推進に取り組む。

1 青少年の健全育成

①「さつまの日」を提唱しながら、自然にふれあい、異年齢の交流や各種の活動を通じて体験を活かすなど、次世代を担う個性豊かで郷土愛のあるたくましい青少年の育成に努める。

②地域づくりへの足がかりとして公民会合併を推進し、自治意識をもって高齢者が豊かな経験と知恵を継承し、地域活性化への起爆剤として住民自らの力で地域に根ざした活動の展開を図られるよう支援する。

2 学校施設整備

施設設備の老朽化が進むなか、安全性・快適性を確保する必要がある。引き続き教育環境整備の充実に努める。

3 小規模校入学特別認可制度

保護者・地域住民の期待に応え、学

6 スポーツの振興

①スポーツを通じた健康づくりを目的に、スポーツ教室・ニースポーツ教室等を実施する。

②本年度は子どもから高齢者まで参加できる種目で、第3回町民体育祭を開催する計画。

③B&Gは、本年度県連絡協議会の当番町（会長）となり、本町で県大会、指導者研修会等を開催する予定。

4 自然と調和した 便利で快適なまち



1 道路整備

①豊かな地域社会、活力ある地域経済の形成を支える基本的かつ不可欠な社会資本であることから、町民の要請に応え、計画的な整備・維持に努める。

②国・県道は、整備促進を引き続き積極的に働きかけるとともに、地域高規格道路（北薩横断道路）薩摩道路の一部が供用開始されることから薩摩道路から泊野道路区間までの調査区間への格上げに向けて強く要望活動を展開する。

2 町営住宅

ストック住宅の改善を行いながら安全で快適な住環境の整備に努める。

3 河川激特事業

①昨年度に引き続き用地取得を進めるとともに工事も本格化していくことから住民の安全対策や情報提供に努める。

②今年度は宮都大橋の仮橋の設置や推込分水路の掘削工事等が着手され、大願寺地区における輪中堤は完成の見込みである。懸案事項である内水対策についても鋭意検討を進める。

4 情報通信施設の整備

公民会（館）の無線化、テレビ難視聴地域のデジタル化、高速通信網（ブロードバンド化）の整備を進める。

5 消防

①近年、住宅火災による犠牲者が発生していることを踏まえ、一層の火災予防対策の推進を図る。

②救急並びに複雑多様化する各種災害に対する的確に対応するため、消防職員の資質の向上をはじめ、水槽付消防自動車などの更新など、常備体制の整備充実に努める。

③地域の安全を守る消防団体制の充実を図るため、消防団員の災害対応能力の向上に努め、団員の処遇改善並びに柏原分団消防車庫等の施設整備を推進する。

6 防災

防災研修会、防災訓練等を実施し地域防災力の向上に努めながら、国・県・

防災機関との情報網を活用し、情報伝達の迅速化と本部機能の充実に努める。

7 水道

①日常生活に必要な不可欠な生活基盤施設として、財政基盤の強化や維持管理体制の整備を図り、「安全・安心でおいしい水」の安定的な供給に努める。

②老朽施設の更新、水質管理の向上、災害時でも安定した水の供給ができるよう施設の耐震化、給水拠点施設などの新たな投資も必要であることから、経営環境を充実しながら、事業計画に基づき効率的な事業経営に努める。

③未普及区域並びに未普及世帯に対する普及促進は、町民が等しく水道の恩恵を受け、健康で文化的な生活を営むうえで最低限の社会基盤であり、住民の意向や水道財政を考慮しながら計画的に推進する。

5 人々の生活視点から創る 環境美化の町

1 環境美化

①町民の意識を高めるため、関係機関と一体となり環境パトロールなどを行い、快適な生活環境の確保に取り組む。

②可燃ごみ・不燃物・資源ごみの収集実績は毎年横ばいの状況であるが、分別と出し方に対する町民への啓発を行い減量化に努める。

2 河川対策

河川汚濁の原因とされている家庭雑

校・地域の活性化が図られるよう制度の運用に努める。

4 学校教育

地域に根ざした特色ある学校づくりを進めながら、「確かな学力」の充実に努めるとともに、心の教育や豊かな人間性、健康・体力などの「生きる力」を備えた児童生徒の育成に努める。

①「確かな学力」の育成は、昨年度に引き続き理科教育や特別支援教育の支援員派遣事業に取り組み、きめ細かな対応に努める。

②教育相談員やスクールソーシャルワーカーの活用を図り、生徒指導への積極的な対応に努める。

③学校としての責任を果たすため、各学校は情報発信に努めるとともに外部評価を含めた学校評価に取り組み、保護者や地域住民に信頼される学校づくりを進める。

④公立幼稚園は、鶴田幼稚園において内容の充実を図り、保護者の子育て支援に資するよう対応する。

5 文化の振興

①郷土に受け継がれてきた永野金山地区の歴史資料調査をはじめ、伝統的文化や新たな文化の創造など文化活動の推進を図る。

②埋蔵文化財発掘調査は、昨年度に引き続き虎居城跡発掘調査を進める。

③宮之城文化センターの一部改修工事を実施する。

住民と行政が 協働するまち

排水の浄化対策として、小型合併浄化槽設置の推進を図る。

3 し尿・ごみ処理施設

供用開始後、環境センターは10年、クリーンセンターは11年が経過し維持管理費は年々増加傾向にあることから、機器類のメンテナンスを強化し、延命化を図ることで経費の削減に努める。

過疎、少子、高齢化の進展と人口減少が急速に進行することが予測されるなか、地域住民による協働の地域づくりは大変重要な課題である。

①4年目を迎えた地域活動支援事業については、引き続き事業を継続するとともに、地域の活性化や魅力ある地域づくりに向けて、地域の実情に即した取り組みを支援する。

②総合振興計画に基づく具体的な取り組みについては、前期5か年計画にかける残り2か年での計画実現をめざして事業の推進を図る。

③景観行政は、住民との合意形成を図りながら、景観計画の策定に向けて取り組みを進める。

④地方交通対策は、これまでのバス運行を継続されるよう要請するとともに、新規赤字路線廃止に対しては、利用者の実態を勘案しながら検討を進める。